

運用先市場の状況

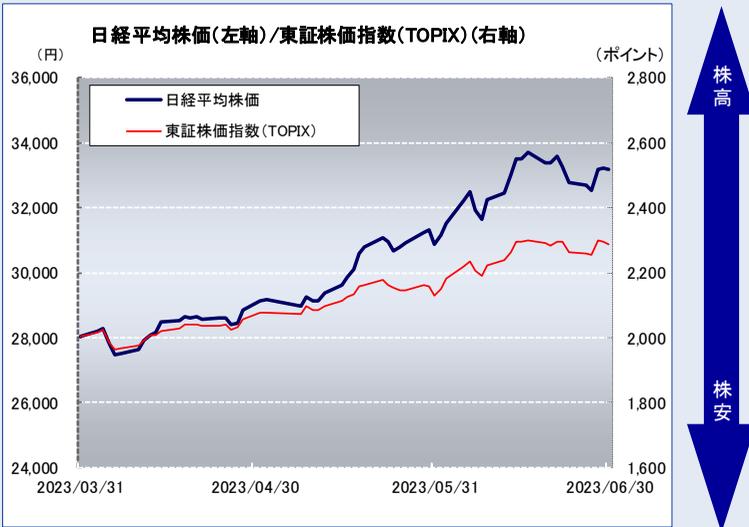
国内株式市場および国内債券市場 2023年4月~6月

作成基準日 2023年6月30日

○国内市場

・株式市場

4~6月を通して見ると、国内株式市場は上昇しました。
 4月、国内の株式市場は上昇しました。日銀総裁に植田氏が就任し、金融緩和策が続くとの見方が広がったことや、米著名投資家による日本株への追加投資観測が上昇要因になりました。
 5月も、株式市場は上昇しました。4月末の日銀金融政策決定会合で金融緩和策の現状維持が決定されたこと、好業績や株主還元策の強化を発表する銘柄などへ資金が流入したこと、米ドル高・円安基調などが上昇を支えました。
 6月も、株式市場は上昇しました。米債務上限問題が解決したことや、米ドル高・円安の進行、輸出関連企業の業績改善期待などが支援材料となりました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

・債券市場

4~6月を通して見ると、国内の長期金利(10年国債利回り)は上昇(債券価格は下落)しました。
 4月、長期金利は、上昇しました。10年国債入札の結果が不調となり、長期金利は上昇しました。日銀の植田新総裁が就任会見で金融緩和を維持する姿勢を示し、一時金利は低下しましたが、政策修正への警戒は払しょくされず、長期金利の低下幅は限定的でした。
 5月も、長期金利は小幅上昇しました。米国で利上げ打止めを巡る不透明感から金利が上昇し、国内金利にも上昇圧力がかかりました。
 6月、長期金利は小幅低下しました。月初は、10年国債入札が堅調で、長期金利は低下しました。しかし、欧米金利の上昇や20年国債入札が不調となったことなどから、月末にかけては低下幅を縮小しました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

運営管理機関：三井住友海上火災保険株式会社 加入者専用コールセンター 0120-401-841

平日(月~金) 9:00~20:00 土日9:00~17:00 (祝日・振替休日・年末年始等は休業させていただきます。)

- 当資料は、確定拠出年金の運用指図を行うために参考となる情報の提供等を目的としたものであり、運用方法に係る勧誘等を目的とするものではありません。最終的な運用指図については、お客さまご自身の判断で行ってください。
- 当資料は、作成日において信頼できると判断した諸データに基づいて作成したものです。その情報の正確性、完全性を保証するものではなく、また、今後の成果を保証・約束するものではありません。
- 当資料の内容について、無断で使用、転用、複製することを禁じます。

運用先市場の状況

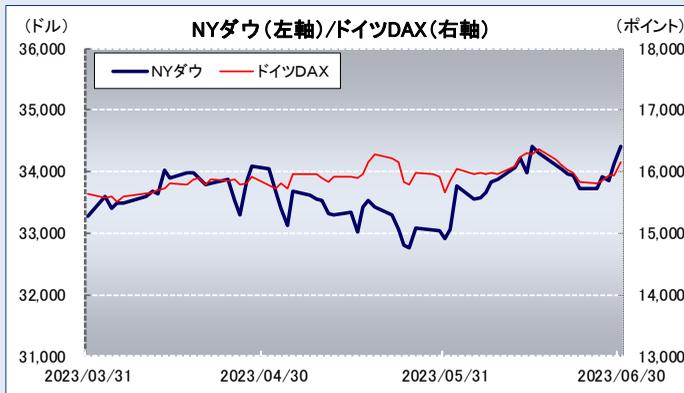
外国株式市場、外国債券市場および為替市場 2023年4月~6月

作成基準日 2023年6月30日

○外国市場

・株式市場

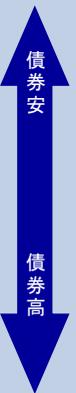
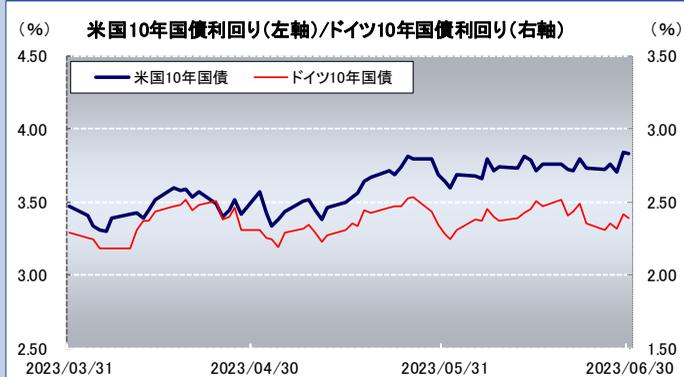
4~6月を通して見ると、欧米ともに株式市場は上昇しました。
 4月、米国株式市場は小幅に上昇しました。物価指数の落ち着きから、利上げ打ち止め期待が下支えしました。
 5月、米国株式市場は指数によってまちまちな動きとなりました。テクノロジー関連銘柄の株価が総じて堅調でナスダック指数が上昇した一方、S&P500インデックスは小幅の上昇でした。
 6月、米国株式市場は上昇しました。債務上限問題の解決や、堅調な雇用統計などを受けて上昇しました。月中に利上げが見送られましたが先行きの利上げ観測が残り、利食い売りに押されました。しかし、月末にかけて景気指標が良好で上昇しました。
 欧州株式市場も、期を通じて見ると米国よりも変動は総じて小幅でしたが同ような動きとなり、上昇しました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

・債券市場

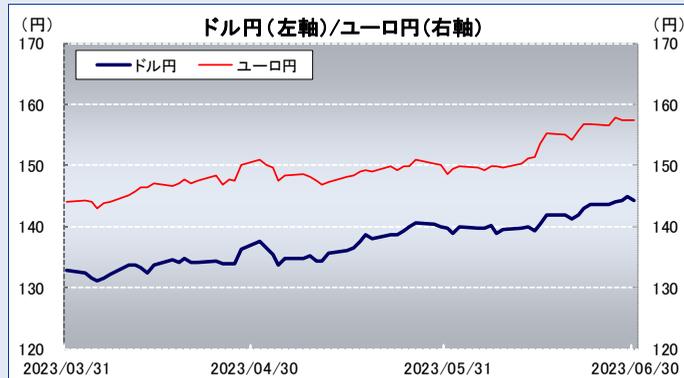
4~6月を通して見ると、欧米長期金利は上昇しました。
 4月、米国の長期金利は一進一退となりました。月初や月末には経済指標が弱めで金利は低下しましたが、中旬には金融不安が和らいぎ、金利は上昇しました。
 5月、米国の長期金利は上昇しました。利上げが見送られましたが景気の底堅さを背景に追加利上げ観測が高まり、金利は上昇しました。
 6月、米国の長期金利は上昇しました。米国の金融引き締めが長期化するとの見方から、金利は上昇しました。
 ユーロ圏でも、ECB(欧州中央銀行)の利上げが続く中、長期金利は前期末比で上昇しました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

○為替市場

4~6月を通して見ると、米ドル、ユーロともに対円では上昇しました。
 4月、米ドル/円は、米ドル高・円安となりました。金融不安が和らいだことや、日銀が月末の金融政策決定会合で大規模な金融緩和策の維持を決めたことが、米ドル高・円安要因となりました。
 5月も、米国と日本との間での金融政策の方向性の違いが意識され、米ドル高・円安が続きました。
 6月も、さらに米ドル高・円安となりました。金融緩和を続ける日銀と海外の中央銀行の方向性の違いから、円は独歩安の展開となりました。
 ユーロ/円も、期を通じて見ると、日欧の金融政策の方向性の違いなどから、ユーロ高・円安となりました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

運営管理機関：三井住友海上火災保険株式会社 加入者専用コールセンター 0120-401-841

平日(月~金) 9:00~20:00 土日9:00~17:00 (祝日・振替休日・年末年始等は休業させていただきます。)

- 当資料は、確定拠出年金の運用指図を行うために参考となる情報の提供等を目的としたものであり、運用方法に係る勧誘等を目的とするものではありません。最終的な運用指図については、お客さまご自身の判断で行ってください。
- 当資料は、作成日において信頼できると判断した諸データに基づいて作成したものです。その情報の正確性、完全性を保証するものではなく、また、今後の成果を保証・約束するものではありません。
- 当資料の内容について、無断で使用、転用、複製することを禁じます。